

# 国語 (現代文)

## 早稲田大学 商学部 1/3

### <総括>

出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間	60分
設問は、昨年度と同様に、傍線部説明と空欄補充(抜き出しを含む)が中心。例年、短めの記述問題が出題されてきたが、今年度は記述問題が出題されなかった。設問数は同じだが、今年度は専門性の高い学問論が出題された。本文を正確に読み取り、筋道立てて正解を導き出すことができるかどうかで差がついたと予想される。			

### <本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	猪木武徳『経済社会の学び方 ―健全な懐疑の目を養う』(2021年、中央公論新社)の第5章「歴史は重要だ(History Matters)ということ」3「証拠の客観性をめぐって」の一節。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章は入試でよく出題される。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加) 約4800字。昨年と変わらない。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	学問論	問一	記述	標準	漢字の書き取り。
		問二	マーク	標準	傍線部内容説明。第7段落の内容に沿ったハを選ぶ。
		問三	マーク	やや易	空欄補充。空欄Ⅱの直前の「正確な法則を伴った」と空欄Ⅲの直後の「歴史的、統計的知識」、空欄Ⅳの直後の「理論的知識」がそれぞれ手がかりになる。
		問四	マーク	やや易	空欄補充。空欄の直前の一文から、「先験主義哲学」が「経験の外にある『認識による知識』」を基盤とする点をおさえる。
		問五	マーク	標準	傍線部内容説明。「証拠に基づく政策」をめぐる複雑な事情を説明した第10段落～第16段落の内容をふまえたイを選ぶ。
		問六	記述	やや難	脱落文補充。脱落文の「問題が『政治化』する」は、『価値』の選択をめぐる争いの表面化を指す。ただし、該当箇所の一文中にも入り得る。
		問七	マーク	標準	傍線部内容説明。空欄Ⅶの直後の段落の内容に沿ったニを選ぶ。消去法でも正解が決まる。
		問八	マーク	やや難	文の整序。正解は(ニ→ハ→ロ→イ)。イの「ましてや」に着目し、イがロに続く内容であることをおさえる。
		問九	マーク	難	空欄補充。ウェーバーの考えを説明した、空欄の直前の段落の内容をふまえて考える。
		問十	記述	標準	空欄補充の抜き出し。第16段落末以降、「客観性」についてのウェーバーの考えが説明されている点に注目する。
		問十一	マーク	標準	傍線部内容説明。本文末から二つ目の段落の内容を踏まえたハを選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

さまざまなジャンルの評論を読み、筆者の表現意図を考えながら文脈をたどっていくことが大切である。筋道立てて正解を導き出す力を培うとともに、多様な設問形式に触れ、選択肢を比較して柔軟に対応する力を養うことが肝要である。短い記述問題にも取り組んでおこう。漢字や語彙の学習も怠らないようにしよう。

# 国語 (古文)

## 早稲田大学 商学部 2/3

### <総括>

出題数

現代文1題・古文1題・漢文1題

試験時間

60分

古文の学力を広範囲にわたって問う出題だった。難易度は例年通りだったが、昨年度より文章が長く、解答数が4つ増えた。

### <本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『積翠閑話』(松亭金水)
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 1580字。昨年より約730字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	随筆	問十二			
		A	マーク	標準	空欄補充 (適切な和歌を選ぶ)。
		B	マーク	やや易	空欄補充 (適切な和歌を選ぶ。直後の内容に注目)。
		C	マーク	標準	空欄補充 (適切な和歌を選ぶ)。
		D	マーク	標準	空欄補充 (適切な和歌を選ぶ)。
		問十三	マーク	標準	空欄補充 (五つの文を適切な順序に並べたものを選ぶ)。
		問十四	マーク	易	文法 (「せ」の識別)。
		問十五			
		a	マーク	易	人物判定。
		b	マーク	易	人物判定。
問十六	記述	標準	脱文挿入 (「葛西の誓力やまさりけん」を挿入する箇所直後の三文字を抜き出す)。		
問十七	マーク	やや易	文の解釈。		
問十八	マーク	易	内容合致。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

古文は、基礎知識を確実に身につけた上で、文章を正確に読み解く力を養っておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

# 国語 (漢文)

## 早稲田大学 商学部 3/3

### <総括>

出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間	60分
漢文は独立した問題として漢詩を含んだ日本の散文が出題された。設問数は昨年度と同様4題であった。例年出題されていた返り点の問題は昨年度に引き続き出題されなかったが、白文の解釈問題が出題された。			

### <本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	森鷗外「航西日記」
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 246字。昨年より110字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随想	問十九	マーク	やや易	解釈の問題。仮定形「縦使」「苟」、指示語「其」の内容、「境」の意味に着目する。
		問二十	マーク	やや易	解釈の問題。使役形「教」と、反語形「～んや」の訳出の仕方に注意。注の「先鞭を着ける」の意味をヒントとして用いる。
		問二十一	マーク	標準	語の意味の問題。5行目「蚤有航西之志」の意味を捉え、リード文を含めた本文の内容を把握する。
		問二十二	マーク	やや易	解釈の問題。願望形「欲」と、否定形「毋」「不可得」に着目する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

基本句形、重要単語、漢詩の知識など、まずは漢文の基礎事項について確実に習熟する必要がある。その上で、趣旨や文脈の流れを正確に捉えられるよう、読解力の養成に努めることが重要である。
---